愛知教育大学教育創造開発機構紀要　vol. 4　pp. 105 ～ 113, March, 2014

小学校教員志望者と養護教諭志望者の保健学習に対する意識の比較

山田 浩平*　河本 祐佳**

*愛知教育大学養護教育講座
**岡崎市立竜海中学校

Difference of Feelings among University Students Aspiring Elementary School Teachers and Yogo Teachers toward Health Education Classes They Have Taken Before

Kohei YAMADA*　and　Yuka KAWAMOTO**

*Department of School Health Sciences, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan
**Ryukai Junior High School, Okazaki 444-0864, Japan

要　　約

小学校教員を志望する大学生188人と養護教諭を志望する大学生229人を対象に無記名自記式の調査票を用いて，①保健学習に対する重要性，自信の有無・イメージ，②養護教諭が行う保健の授業について，③学生がもつ健康観の３点について検討した。その結果，本研究対象者は保健学習の実施に対して自信がない者が多く，その主な原因は経験不足と知識不足であった。また，養護教諭志望者は自分の生活経験だけでは十分に授業が実施できないと考える一方で，小学校教員志望者は自己の経験から授業ができると安易に考える傾向にあることが推察された。さらに，保健学習に対するイメージでは，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれもマイナスのイメージが多かった。

Keywords：小学校教員志望者，養護教諭志望者，保健学習，意識

Ⅰ．緒　言

近年の日本における都市化，少子高齢化，情報化，国際化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は，子どもの心身の健康にも大きな影響を与えている。学校生活においても，生活習慣の乱れ，いじめ，不登校，児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題，アレルギー疾患，性の問題行動や薬物乱用，感染症など新たな課題が顕在化しており[1]，現代の子どもたちの健康を取り巻く環境は複雑化，深刻化している。

1998年の学習指導要領改訂においては確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を目指す「生きる力」の育成が学校教育の方針として掲げられた。この方針は2008年の学習指導要領の改訂においても踏襲され，引き続き子どもたちの生きる力の育成が重視されている[2]。生きる力の育成にあたっては，その中核をなす学校保健活動，即ち保健教育と保健管理の充実強化に努めていく必要がある。その中でも保健教育に視点をあてると，小学校体育科保健領域では，健康・安全に関する基礎的・基本的な理解，健康的なライフスタイルの確立，健康・安全に関する新たな課題への対応，心の健康の保持増進を基本的な視点において改善が図られた。加えて，2002年には児童の発育・発達の早期化や生活習慣の乱れに対応するため，小学校中学年の体育科に保健領域が新設された[3]。

生涯を通して心身ともに健康な生活を送るには，生活習慣の基礎や対人関係能力の基礎を培う義務教育の期間における保健教育が肝要であり，保健教育は学級担任や養護教諭など児童に関わる多くの者が指導できるものである。さらに，1998年に教育職員免許法が改正され，養護教諭の免許状を有し三年以上の勤務経験がある者で，現に養護教諭として勤務している者は，その勤務する学校において保健の教科（保健学習）を担当できることになった[5]。これらのことから養護教

諭が教科の担当となり，保健学習を実施する制度が整備され，さらなる保健学習の充実を目指す動きが顕在化しているといえる。

しかしながら，小学校体育科保健領域や中学校での保健体育科保健分野における保健学習については，質及び量に関して不十分であることが報告されている[6) 7)]。この原因としては，担当教員の専門知識･技術や指導力などの内的要因と教員養成に関わるカリキュラムや免許制度，教員研修などの外的要因が挙げられており[8)]，保健学習を充実・強化するにあたっては，まずもって内的要因を改善する必要がある[8)-10)]。さらに，小浜と戸野[11)]は教師の授業に対する思考が教材選定の視点や授業づくりの視点，授業を規定する要因となると述べており，保健学習担当者が持つ苦手意識が学習者に伝わり，学習者の保健学習に対する否定的なイメージが多くなると述べている。これは，教師が持つ授業イメージで授業の構成や形態に大きな影響を与えるとともに学習者の保健学習に対するイメージにも影響を与えると考えられる。

これまでの先行研究[12)-14)]では，保健を専門分野とする中・高保健体育科教員や養護教諭の保健学習に対する調査が散見されている。しかし，この他に保健学習を担当する可能性があるのは小学校教員であるが，この教員を対象とした保健学習に対する意識調査はほとんどなされていない。保健学習の充実・強化をするにあたっては，養護教諭と中・高保健体育科教員や学級担任との協力が重要であり，相互の保健学習に対する意識や価値観の一致はよりよい授業づくりに繋がると考えられる。さらに，保健学習に関する意識調査において，保健学習担当予定の学生を対象とした研究は少なく，学生が保健学習に対してどのような意識を持っているのかについて明らかにすることは，今後の保健学習の向上に繋がると考えられる。

そこで，本研究では今後の保健学習を担当する学生に対して，保健学習に対する意識を明らかにし，保健教育を充実させるための基礎資料を得ることを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1. 調査日時・対象

2012年11月に，北海道及び愛知県の養護教諭養成課程の大学3，4年生259人と，愛知県の教育教員養成課程の大学3，4年生229人を対象に自作の無記名自記式の質問紙を用いたアンケート調査を，集合調査の形式で行った。調査票はその冒頭に本調査の趣旨を記載し，対象者本人が調査への協力に同意するか否かを答える解答欄を設け，これに回答した上で各質問に答えてもらうようにした。アンケート調査協力の同意が得られなかった場合には，その場で調査を打ち切るように配慮した。

なお，記入漏れや重複回答があるものを除いた有効回答数は，養護教諭養成課程では229人で有効回答率は88.4%，教員養成課程では188人で有効回答率は82.1%であった。

2. 調査内容

質問紙は養護教諭志望者と小学校教員志望者それぞれを対象としたものを作成した。

1）養護教諭志望者に対する調査内容

①基本的属性は，学年，性別，学科である。

②保健学習の重要性では「他教科より重要」,「他教科と同等」,「他教科ほど重要でない」の3件法で尋ねた。

③保健学習を実施する自信の有無では「自信がある」から「自信がない」までの4件法で尋ねた。さらに，それぞれを選択した理由を7項目から選択してもらった。

④保健学習に対するイメージについては，22項目から対象者の考えに近いものすべてを選択してもらった。

⑤養護教諭が実施する保健学習について

⑤-1兼務発令により養護教諭が授業を実施することについて「賛成」,「どちらともいえない」,「反対」の3件法で尋ねた。さらに，そのように回答した理由を自由記述にて尋ねた。

⑤-2担任が実施する保健学習に対する協力では，「協力したい」から「協力したくない」までの4件法で尋ねた。さらに，それぞれを選択した理由を9項目から選択してもらった。

⑥健康観は，健康とは何かという質問に対し，16項目から対象者のイメージに最も近い3項目を選択してもらった。

2）小学校教員志望者に対する調査内容

調査内容は養護教諭志望者と同様，①基本的属性，②保健学習に対する重要性，③保健学習に対する自信の有無，④保健学習のイメージ，⑤養護教諭が実施する保健学習について（⑤-1兼務発令，⑤-2担任との連携，），⑥健康観であった。なお，養護教諭と異なる質問は，⑤養護教諭が実施する保健学習についての項目である。具体的には，⑤-1兼務発令を受けている養護教諭に授業を実施してもらいたいかを「全面的に行ってもらいたい」,「内容によっては行ってもらいたい」,「自分で行いたい」の3件法で尋ねた。⑤-2担任が実施する保健学習に対する協力では，授業づくりにおいて，養護教諭と「協力したい」から「協力したくない」までの4件法で尋ねた。

3. 分析方法

統計分析には統計ソフトSPSS for Windows 16.0Jを

使用し，χ^2検定，調整残差分析を行った。

Ⅲ．結　果

1．対象者の属性

本研究対象者の属性の違いを検討するために，小学校教員志望者と養護教諭志望者別に，基本的属性である地域，学年，性別，学科と，他の質問項目である保健学習の重要性，保健学習の実施に対する自信の有無，保健学習に対するイメージ，養護教諭が実施する保健学習，健康観のそれぞれについてχ^2検定を行った。その結果，地域，学科，性別では有意差は認められず（χ^2=.02～1.17），学年では保健学習の実施に対する自信の有無についてのみ，4年生の方が3年生に比べて若干高い傾向が認められた（χ^2=1.64）。しかし，属性に関しては大きな違いが認められなかったため，以後の分析は属性に関わらず小学校教員志望者と養護教諭志望者のみに分析して行った。

2．保健学習に対する重要性・自信の有無・イメージ

保健学習の重要性を「他教科と同等」と考える学生は小学校教員志望者と養護教諭志望者のいずれにおいても多く，養護教諭志望者が82.5%，小学校教員志望者が76.1%であった。これらの割合について差を比較したところ，小学校教員志望者に比べて養護教諭志望者の方が有意に高かった（p<.05）。

次に，保健学習の実施に対する自信の有無について尋ねたところ，「自信がない」と回答した者は養護教諭志望者が63.8%，小学校教員志望者が76.6%であり，小学校教員志望者の割合が有意に高かった（p<.05）。さらに，保健学習の実施に自信があると回答した者に自信がある理由を尋ねたところ，表1に示す通りであった。上位を占めた項目は，養護教諭志望者では「自分の生活に身近であるから」「保健の授業について大学の講義で学んだから」，「教科書を読めば（読ませれば）実施できるから」であり，小学校教員志望者では「自分の生活に身近であるから」，「自分の経験から教えられることが多そうであるから」，「教科書を読めば（読ませれば）実施できるから」であった。これらのうち，有意差が認められた項目は「保健の授業について大学の講義で学んだから」，「自分の経験から教えられることが多そうであるから」，「教科書を読めば（読ませれば）実施できるから」であった。

これに対して，保健学習の実施に自信がないと回答した者の理由としては，表2に示す通りであった。上位を占めた項目は，養護教諭志望者では「児童に対して授業を行ったことがないから」，「内容が取り扱いにくいから」，「何を教えるべきか分からないから」であり，小学校教員志望者では「何を教えるべきか分からないから」，「内容が取り扱いにくいから」，「保健の授

表1　自信がある理由（複数回答）

	養護教諭（N=83）		小学校教員（N=44）		
	度数	%	度数	%	%test
自分の生活に身近であるから	56	67.5	28	63.6	
保健の授業について大学の講義で学んだから	41	49.4	9	20.5	*
自分の経験から教えられることが多そうであるから	24	28.9	23	52.3	*
教科書を読めば（読ませれば）実施できるから	14	16.5	15	34.1	*
小中高校時代に勉強してきたから	4	4.8	10	22.7	
その他	6	7.2	3	6.8	

*p<.05

表2　自信がない理由（複数回答）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
児童に対して授業を行ったことがないから	61	41.8	23	16.0	*
内容が取り扱いにくいから	57	39.0	57	39.6	
何を教えるべきか分からないから	50	34.2	64	44.4	
保健の授業がつまらなかったから	20	13.7	16	11.1	
保健の授業について考えたことがないから	8	5.5	48	33.3	*
その他	19	13.0	1	0.7	

*p<.05

業について考えたことがないから」であった。これらのうち有意差が認められたのは「児童に対して授業を行ったことがないから」,「保健の授業について考えたことがないから」であった。

続いて，保健学習に対するイメージは，プラスのイメージ9項目，マイナスのイメージ12項目に分類できた。保健学習のプラスのイメージで上位を占めた項目は，表3に示すように，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも「生活や生きていくのに必要」,「自分にとって身近」,「ビデオや写真をみて学習した」であった。プラスのイメージでは養護教諭志望者と小学校教員志望者との間に有意差が認められなかった。

一方，保健学習のマイナスのイメージで上位を占めたのは，表4に示すように，養護教諭志望者では「体育が雨でできないときに行う」,「教科書を読んで話を聞いているだけ」,「テスト前に暗記するだけ」であり，小学校教員志望者では「体育が雨でできないときに行う」,「テスト前にまとめてやるもの」,「テスト前に暗記するだけ」であった。これらのうち有意差が認められた項目は,「教科書を読んで話を聞いているだけ」,「他の授業より簡単」の2項目であった。なお，選択された項目の合計数は養護教諭志望者664個，小学校教員志望者433個であり，小学校教員志望者に比べて養護教諭志望者の方が顕著に多かった。

表3　保健学習に対するプラスのイメージ（複数回答）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
生活や生きていくのに必要	133	58.1	103	54.8	
自分にとって身近	90	39.3	71	37.8	
ビデオや写真をみて学習した	83	36.2	55	29.3	
自分と向き合える	45	19.7	21	11.2	
先生の体験談を話してくれる	34	14.8	28	14.9	
自分が健康になれる	28	12.2	28	14.9	
実習や体験学習をした	23	10	15	8	
調べ学習をした	20	8.7	10	5.3	
楽しかった	18	7.9	10	5.3	
プラスのイメージ　合計	374		341		

表4　保健学習に対するマイナスのイメージ（複数回答）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
体育が雨でできないときに行う	106	46.3	97	51.6	
教科書を読んで話を聞いているだけ	97	42.4	47	25.0	*
テスト前に暗記するだけ	82	35.8	53	28.2	
テスト前にまとめてやるもの	80	34.9	61	32.4	
他の授業より簡単	77	33.6	29	15.4	*
寝ている生徒が多い	73	31.9	44	23.4	
性教育の印象が強い	44	19.2	40	21.3	
体育の先生が面倒そうにやる	41	17.9	14	7.4	
面白くない	24	10.5	23	12.2	
特に興味はなかった	9	3.9	6	3.2	
覚えていない	1	0.4	2	1.1	
その他	2	0.9	2	1.1	
マイナスのイメージ　合計	664		433		

$^{*}p<.05$

3. 養護教諭が実施する保健学習

兼務発令への賛否では，「賛成」と回答した者は養護教諭志望者が71.9%，小学校教員志望者が90.4%であり，小学校教員志望者の方が養護教諭志望者に比べて有意に割合が高かった。さらに，兼務発令への賛否について，その理由について尋ねたところ，表5に示すように，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも多かったのは「養護教諭は専門的な知識を持っているから」であり，次いで「よりよい保健学習ができるから」，「養護教諭は専門的に教えられるから」の順であった。なお，これらの割合について有意差は見られなかった。

次に，養護教諭が保健学習を実施することについて最も割合が高かったのは，「内容によっては養護教諭が授業を実施したい・実施してほしい」と回答した養護教諭志望者は55.5%，小学校教員志望者は50%であった。次いで多かったのが，「全面的に養護教諭が授業を実施したい・実施してほしい」であり，養護教諭志望者が31.4%，小学校教員志望者が46.2%であり，有意に小学校教員志望者の割合が高かった（$p<.05$）。

続いて，保健の授業づくりを養護教諭と担任で協力して行いたいかについては，「協力したい」と回答した者は，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも97.8%であった。さらに，保健の授業づくりを養護教諭と担任で協力したいと回答した者に，その理由を尋ねたところ，表6に示すように，協力したい理由として上位を占めたのは養護教諭志望者では「保健に関する専門知識を提供したいから」，「児童の健康実態について情報を提供したいから」であり，小学校教員志望者では「保健に関する専門知識を得たいから」，「授業の進め方について助言を得たいから」であった。これらのうち，有意差が認められたのは「保健に関する専門知識を提供したい・得たいから」，「児童の健康状態について情報を提供したい・得たいから」，「授業の

表5　兼務発令に賛成する理由（自由記述）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
養護教諭は専門的な知識を持っているから	44	33.0	62	34.1	
よりよい保健授業ができるから	37	21.0	55	30.2	
養護教諭は専門的に教えられるから	69	17.7	21	11.5	
学校・児童の実態に応じた授業ができるから	10	4.8	10	5.5	
子どもたちが関心を持って	6	2.9	2	1.1	
授業で得たことを保健室経営に活かせるから	6	2.9			
養護教諭も教師であるから	5	2.4			
担任では授業がうまくできないから			10	5.5	
担任の負担が減るから			7	3.8	

*$p<.05$

表6　協力したい理由（複数回答）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
保健に関する専門知識を提供したい（得たい）から	173	77.2	121	66.5	*
児童の健康状態の情報を提供したい（得たい）から	154	68.8	60	33.0	*
自分の専攻科目だから（専攻でないから）	63	28.1	58	31.9	
教えるべき点を理解してほしい（理解したい）から	61	27.2	41	22.5	
内容が取り扱いにくいから	49	21.9	35	19.2	
授業の進め方について助言をしたい（得たい）から	13	5.8	114	62.6	*
保健の授業を充実させたいから	157	70.1			
担任の授業の準備への負担を軽減したいから	23	10.3			
1人で授業の準備をすることが面倒だから			16	8.8	
保健授業の実施に対して自信がないから			67	36.8	

*$p<.05$

進め方について助言をしたい・得たいから」であった（いずれもp<.05）。

4. 健康観

健康とは何かについて尋ねた結果については，表7に示すように先行研究を参考に回答項目を『生活の質』，『資源』，『心身ともに健康なこと』，『生活そのもの』の4つに分類した。多少の順位は異なるものの養護教諭志望者と小学校教員志望者でほぼ同様の傾向が見られ，『生活の質』で上位を占めた項目は，「生き生きとした生活」，「幸せなこと」，「大切なもの」，『資源』では「生活の基本・基礎」，『心身ともに健康なこと』では「体調が良いこと」，「病気でないこと」，『生活そのもの』では，「生きること」が上位であった。これらの項目について，養護教諭志望者と小学校教員志望者の割合について差を見たところ，「病気でないこと」は，養護教諭志望者に比べて小学校教員志望者の方が有意に高かった。なお，最も回答が多かった項目は，養護教諭志望者と小学区教員志望者のいずれも「生活の質（QOL）」であった。

Ⅳ. 考　察

本研究は，養護教諭志望者と小学校教員志望者の保健学習に対する意識について，以下の3点から検討した。1点目は保健学習に対する重要性・自信の有無・イメージ，2点目は養護教諭が行う保健の授業として，兼務発令に対する賛否，養護教諭の保健学習の実施，保健学習における養護教諭と担任の協力，3点目は健康観から検討した。

1. 保健学習に対する重要性・自信の有無・イメージ

まず，保健学習の重要性については，「保健学習と他教科の重要性は同等」と回答した養護教諭志望者が8割以上，小学校教員志望者が76%であった。本研究の対象学生の多くが，受験科目とされている5教科と保健学習を同等としてみなしている傾向が明らかとなった。その一方で，養護教諭志望者と小学校教員志望者の割合には有意差がみられ，養護教諭志望者の方が保健学習を他教科と同等であるとみなしていることが明らかとなった。このことから，養護教諭志望者と小学校教員志望者との間には保健学習の重要性に対して意

表7　健康とは（複数回答）

	養護教諭（N=146）		小学校教員（N=144）		
	度数	%	度数	%	%test
〈生活の質（QOL）〉					
生き生きとした生活	118	59.3	77	49.0	
幸せなこと	72	36.2	44	28.8	
大切なもの	53	26.6	39	25.5	
一生涯持ち続けたいこと	53	26.6	47	30.7	
充実すること	47	23.6	28	18.3	
楽しい生活	24	12.1	27	17.6	
前向きであること	21	10.6	12	7.8	
ゆとりある生活	15	7.5	8	5.2	
QOLや自己実現を達成できるもの	1	0.5	0	0.0	
〈資源〉					
生活の基本・基盤	62	31.2	32	20.9	
充実するためのもの	29	14.6	14	9.1	
活力	18	9.0	12		
〈心身ともに健康なこと〉					
体調が良いこと	21	10.6	35	22.9	
病気でないこと	17	8.5	36	23.5	*
ストレスがないこと	13	6.5	10	6.5	
〈生活そのもの〉					
生きること	14	7.0	14	9.2	

*p<.05

識の差があり，小学校教員志望者の保健に対する意識の向上が期待される現状を窺える結果となった。

次に，保健学習の実施に対する自信の有無では，「自信がない」と回答した者の割合はいずれも6割以上であり，本研究の対象学生は，保健学習の実施に対して自信がない者が半数以上を占めていることが明らかとなった。「自信がない」と回答した者における「自信がない理由」で最も多かった項目は，養護教諭志望者では「児童に対して授業を行ったことがないから」であり，小学校教員志望者では「何を教えるべきか分からないから」であった。両者ともに経験不足や知識不足を自信がない理由として挙げる者が多数を占めることから，学生が経験や知識を身につけることが保健学習を実施する自信に繋がると考えられる。次いで上位を占めたのは養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも「内容が取り扱いにくいから」，「何を教えるべきか分からないから」であり，保健学習の実施方法や内容の取り扱い方が分からないために自信がないと考えられる。さらに，「自信がない理由」で養護教諭志望者と小学校教員志望者との間で，有意差が認められた項目は「児童に対して授業を行ったことがないから」であった。このことから，養護教諭志望者も授業の経験を得ることで，授業の実施に自信を持てるようになることが推察される。これに対して「自信がある」と回答した者における「自信がある理由」について，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれにおいても最も割合が高かった理由は「自分の生活に身近であるから」であった。このことから，保健学習の実施に対して「自信がある」と回答した者は，授業で扱う内容が生活に密着していると考える傾向があることが明らかとなった。次いで上位を占めたのは，養護教諭志望者では「保健の授業について大学の講義で学んだから」であり，大学での学びが自信に繋がっていることが示唆された。一方で，小学校教員志望者で上位を占めた項目は「自分の経験から教えられることが多そうだから」，「教科書を読めば（読ませれば）できそうだから」であり，保健は自分の生活に身近であるために教師の経験や教科書があれば教えられると軽視されがちであると考えられる。さらに，これらの項目は養護教諭志望者と小学校教員志望者の間に有意差が認められた。養護教諭志望者は自分の生活経験だけでは十分に授業が実施できないと考える一方で，小学校教員志望者は自己の経験から授業ができると安易に考える傾向にあることが推察される。

続いて，保健学習に対するイメージについて尋ねたところ，保健学習に対するプラスのイメージで上位を占めた項目は，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも「生活や生きていくのに必要」，「自分にとって身近」，「ビデオや写真をみて学習した」であり，いずれも有意差は認められなかった。一方，保健学習に対するマイナスのイメージの上位項目は，養護教諭志望者では「体育が雨でできないときに行う」，「教科書を読んで話を聞いているだけ」，「テスト前に暗記するだけ」であり，小学校教員志望者では「体育が雨でできないときに行う」，「テスト前にまとめてやるもの」，「テスト前に暗記するだけ」であった。いずれも授業の方法に対するマイナスのイメージが上位を占めた。プラスのイメージとマイナスのイメージの合計数は，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれもマイナスのイメージが上回っており，この結果は筆者の養護教諭志望の大学生を対象とした研究[2]と同様の結果であった。このことから，学生が保健は生活に密接に関わる科目であり，身近なものであると考える一方で，今までに受けてきた授業の実施方法に対してのマイナスイメージが強いため，保健学習実施に対する苦手意識や保健を軽視する傾向があると推察される。

2. 養護教諭が実施する保健学習について

兼務発令に対する賛否では，兼務発令に賛成する者は養護教諭志望者7割と小学校教員志望者9割で有意差が認められた。いずれも7割以上が賛成していることから，養護教諭が保健学習を実施することは受け入れられ始めていることが窺える。小海[15]が中学校の保健体育科教員に対して同様の質問をした結果，賛成と回答したのは70.2%であり，本研究の対象とした養護教諭志望者と同様の割合であった。このことから，養護教諭志望者や現場の教師は，養護教諭が授業を行うことに対して，やや慎重な姿勢があることが考えられる。さらに，兼務発令に賛成する理由の上位3つは養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも同様であり，「養護教諭は専門的な知識を持っているから」，「養護教諭が行うことでよりよい保健学習ができるから」，「養護教諭は専門的に教えられるから」であった。これらの結果から，養護教諭の専門性が認められ，期待されていることが窺える。この結果は，小海[15]が同様の質問を現職の養護教諭と中学校保健体育科教員に行った研究結果と同様であった。

次に，養護教諭の保健学習の実施では，「養護教諭が全面的に保健学習を実施したい・実施してほしい」と回答した者は養護教諭志望者が3割，小学校教員志望者が約5割であり，有意差が認められた。小海[15]によると，現場の養護教諭と中学校保健体育科教員の5割以上が「養護教諭が授業を担当すると保健室業務に支障が出る，養護教諭が保健室に不在の時間が確実にあるのは良くない」と考えることを報告している。この報告と本研究結果の全面的に保健学習を実施したいと考える養護教諭志望者が3割，養護教諭に全面的に保健学習を実施してほしいと考える小学校教員志望者が約5割程度に留まったことを考慮すると，現状では保健室での職務と授業実施の両者を円滑に実施できる

条件が整っていない可能性が推察される。さらに，養護教諭志望者の7割は兼務発令に賛成しているものの，授業を全面的に実施したいと考える者は3割であったこと，授業の実施に自信がない養護教諭志望者が6割であったことから，兼務発令は養護教諭の専門性が活かせる上で，さらには保健学習の充実に貢献できるため賛成であるが，授業の実施に自信が持てないことや保健室での職務への影響を考えると全面的に授業を実施したくはないと多くの養護教諭志望者が考えていることが推察される。

続いて，保健学習における養護教諭と担任の協力では，養護教諭志望者と小学校教員志望者の両者が97.8%という高い割合で「協力したい」と回答した。協力したい理由として最も多かったのはいずれも「保健に関する専門的知識を提供したい・得たいから」であり，6割以上を占めていた。この結果から，両者が協力することに求めるものは同様の傾向であることが明らかになった。加えて，養護教諭は保健に関する知識をもつ存在であるというイメージが養護教諭志望者と小学校教員志望者の両者にあることも示唆する結果になった。次に，養護教諭志望者と小学校教員志望者の「協力したい理由」において，有意差があった項目をみると，「児童の健康実態について情報を提供したい･得たい」では養護教諭志望者が7割，小学校教員志望者が3割であった。これは，養護教諭志望者が児童の健康実態を保健学習に活用できるように提供したいと考える一方で，小学校教員志望者が授業に取り入れようとする意識が低いことが推察される。さらに，「授業の進め方に助言をしたい・助言を得たい」という項目では養護教諭志望者が1割弱，小学校教員志望者が6割であり，顕著な差がみられた。養護教諭志望者は授業の実施に自信がないため，日々，授業を行っている担任に対する授業の進め方についての助言はしづらいと考えていることが窺える。しかし，担任側からは助言を求める声が多くあることから，養護教諭志望者の授業力の向上や養護教諭志望者が保健学習の実施に対する自信を持つことで，よりよい協力関係が築いていけると考えられる。そのためには，先述したように養護教諭志望者が授業経験を得ることや，授業を実施するための知識を得ることが有効であると考えられる。

3. 健康観

保健授業の担当者では授業者が持つ健康観が授業にも反映されることが報告されていることから[16]，小学校教員志望者と養護教諭志望者の健康観についても尋ねた。その結果，最も多かったのは養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれも「生き生きとした生活」であった。次いで多かったのは，「幸せなこと」，「一生涯持ち続けたいこと」，「生活の基礎・基盤」であった。本研究対象者は病気でないなどの身体的な健康だけでなく，精神的・社会的に健康であることを健康として認識している傾向が窺えた。この傾向は筆者が養護教諭を志望する学生を対象にして行った研究と同様の結果であり[2]，養護教諭志望者と小学校教員志望者のいずれもヘルスプロモーションの理念を反映した健康観を持っていることが明らかになった。

しかし，その一方で小学校教員志望者は養護教諭志望者に比べて「病気でないこと」と答える者の割合が有意に高く，病気でないことを健康の条件としてあげる者が多かった。そのため，これらの集団に対して社会的・精神的健康観を高めていく必要性が窺えた。

Ⅴ．結　論

養護教諭を志望する大学生229人と小学校教員を志望する大学生188人を対象に無記名自記式の質問紙調査を行った。調査内容は，①保健学習に対する重要性，自信の有無，イメージ，②養護教諭が行う保健の授業について，③学生がもつ健康観の3点である。

その結果，本研究対象者は保健学習の実施に対して自信がない者が多く，その主な原因は経験不足や知識不足であった。さらに，小学校教員志望者は保健の授業の実施に対して助言を得たいと考えている一方で，養護教諭志望者は授業の実施について自信がない者が多く，養護教諭志望者の授業力の向上や保健学習の実施に対する自信を持つことで，よりよい協力関係が築いていけると考えられる。また，養護教諭志望者は自分の生活経験だけでは十分に授業が実施できないと考える一方で，小学校教員志望者は自己の経験から授業ができると安易に考える傾向にあった。

今後は，知識や経験だけでなく，学生がプラスのイメージを身につけられるような教育活動を行うとともに，養護教諭志望者に対しては授業の進め方に対する活動が保健学習の充実・強化に繋がる可能性が示唆された。

Ⅵ．参考文献

1）中央教育審議会答申（2008）「子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2009/01/14/001_4.pdf. Accessed November 22, 2012

2）山田浩平（2011）養護教諭志望者の保健学習に対する意識，東海学校保健研究，35（1）：25-32,

3）高倉実，小林稔（2003）小学校体育「保健領域」の実施状況および教員の意識とその変化について（第1報）研究デザインとベースラインデータ，学校保健研究，45：248-256

4）石榑清司，有木恵美（2002）小学校の「保健」授業に関する教員の意識，滋賀大学教育学部紀要教育科学，52：1-15

5）文部科学省（1998）教育職員免許法の一部を改正する法律

等の公布について
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19980625001/t19980625001.html, Accessed January 8, 2013
6）藤田和也（2002）学校教育が担うべき保健の学力形成,（森昭三，和唐正勝編著）保健の授業づくり入門：9-18，大修館書店，東京
7）今村修（2007）保健学習担当教員としての力量形成,（教員養成系大学保健協議会編）学校保健ハンドブック：41-47，ぎょうせい
8）藤江善一郎，堀内久美子，森美喜夫，他（1986）小学校における保健学習・指導の調査研究　第4報　回答者の属性と保健学習の準備および実施状況との関連，学校保健研究，28（12）：562-561
9）田原靖昭（1975）小学校体育科「保健」担当教員に関する研究　第1報　その資質の背景について，学校保健研究，17（9）：424-431
10）谷健二，渡辺功（1979）小学校体育科における保健学習の実態静岡県S地区における，学校保健研究，21（7）：331-336
11）小浜明，戸野塚厚子（1995）保健の授業担当者の授業意識に関する研究，学校保健研究，36（9）：651-668
12）門田新一郎（2003）小学校における養護教諭の教科「保健」担当に関する調査研究―養護教諭と学校長を対象として―，学校保健研究，45：318-330
13）門田新一郎（2000）中学校保健体育教師を対象とした養護教諭の保健学習担当に関する調査研究，日本公衆衛生雑誌，47（6）：530-537
14）廣原紀恵，服部恒明，植田誠治（2003）高等学校保健体育教師を対象とした養護教諭による教科「保健」担当に対する意識調査，学校保健研究，45：225-232
15）小海節美（2005）養護教諭の「保健」授業の担当に関する調査研究―養護教諭と保健体育教諭の比較―，福山市立女子短期大学紀要，31：67-75
16）森昭三（2002）保健の授業が成立するということ,（森昭三，和唐正勝編著）保健の授業づくり入門，34-49，大修館書店，東京

（2013年11月20日受理）